

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		佐々木 香代子		所 属		留学生センター		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.20	①授業内容およびレベルが履修登録した学生のニーズに合うよう、授業実施前にアンケートを行い、その結果を基にシラバスに適宜変更を加える。あるいは、学習者の反応を見て教材に修正を加えるなど授業の質の向上に努める。 ②共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」の講師の一人として、講義を行う。 ③留学生を受け入れている指導教員のためのインフォメーションブックを更新する。				0.20	①授業実施前にアンケートを行い、その結果を基にシラバスおよび教材に修正を加えるなど授業の質の向上に努めた。 ②共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」の講師の一人として、6月2日に講義を行った。 ③留学生を受け入れている指導教員のためのインフォメーションブックを10月に更新した。 ④担当した日本語クラスの留学生に雑誌作りを呼びかけ、『留学生の、留学生による、留学生のための沖縄情報誌』作りを指導した。				
研究	0.30	①昨年度まで科研費(基盤研究(C))の助成を受けて行っていた県内高校生を対象にした沖縄語使用/理解についての研究をまとめ、学会誌等に投稿する。 ②上記研究の継続研究として、結果の検証を行うため、県内高校生を対象に調査を実施する。				0.30	①昨年度まで科研費(基盤研究(C))の助成を受けて行っていた県内高校生を対象にした沖縄語の使用/理解についての研究の一部をまとめ、冲国大の『総合学術研究紀要』に投稿、査読の上、受理された(3月発行予定)。また、統計処理結果を再分析し、これを学会誌に投稿するため、論文を作成中である。 ②上記研究の継続研究を行うための準備を進めた。				
社会貢献	0.25	①研究補助員制度を利用して開発を行っている知的障害児の言葉の獲得および文字学習のための教材を、学外の障害児教育従事者と連携しながら進める。 ②学外の研究者等とともに開発を進めている「外国人のための沖縄語学習教材」を、「研究①」の調査結果を踏まえて更に作成を進め、完成させる。				0.25	①研究補助員制度を利用して開発を行っている知的障害児の言葉の獲得および文字学習のための教材を、学外の障害児教育従事者と連携しながら進め、開発した教材を順次、HPに公開した。 ②学外の研究者等とともに開発を進めている「外国人のための沖縄語学習教材」を、「研究①」の調査結果を踏まえて更に作成を進め、8割程度まで完成させた。				
管理運営	0.10	①ハラスメント相談室相談員として、対応に努める。 ②昨年度作成した災害時の対応や安否確認の方法等についての情報を記載した携帯用の「災害時安全確認カード」の外国語版を作成・印刷し、留学生に配布する。 ③日本語教育副専攻の副主任として、学生の履修指導およびカリキュラムの調整に努める。				0.10	①ハラスメント相談室相談員として、対応に努めた。 ②昨年度作成した災害時の対応や安否確認の方法等についての情報を記載した携帯用の「災害時安全確認カード」の外国語版を作成・印刷し、10月に、留学生に配布した。 ③日本語教育副専攻の副主任として、学生の履修指導およびカリキュラムの調整に努めた。				
進路指導	0.05	①オープンキャンパスに参加し、来訪した留学生に情報を提供する。また、日本人学生に対しては、「短期留学」の宣伝に努める。県内の日本語学校に、オープンキャンパスの案内を出す。 ②在籍する留学生からの進学相談に対応・指導する。 ③琉大に進学を希望する学外からの問い合わせに対応・指導する。また、東京、大阪で実施予定の進学説明会に出席し、進学相談に対応する。				0.05	①オープンキャンパスに参加し、高校生に対して、「短期留学」の説明を行った。また、県内の日本語学校に、オープンキャンパスの案内を出した。 ②在籍する留学生からの進学相談および日本語学習についての問い合わせに対応・指導した。 ③琉大に進学を希望する学外および海外からの問い合わせに対応・指導した。また、7月に大阪で開催された進学説明会に出席し、進学相談に対応した。				
国際交流	0.10	①地域の小中高等学校の児童・生徒と留学生との交流を図る。 ②久米島ホームステイを9月に実施する。ステイ期間中に留学生と久米島の児童・生徒が交流できるように、久米島の小中高等学校と調整する。 ③留学生まつりを7月5日(土)に実施し、留学生と地域の人々との交流を図る。 なお、病気や事故などが起きないように、留学生の指導に努める。				0.10	①地域の高等学校の生徒と留学生との交流会を行った。 ②久米島ホームステイを9月下旬に実施した。ステイ期間中に、留学生と久米島高校の生徒との交流会を行った。 ③留学生まつりを7月5日(土)に実施し、留学生と地域の人々との交流を図った。また、病気や事故などが起きないように、留学生の指導に努めた。 ④沖縄本島内でのホームヴィジット、ホームステイを希望する留学生に対し、ホストファミリーを紹介した。				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1)本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	武藤 彩加		所 属	留学生センター	
職 名	准教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	<p>①「日本語研修コース(大学院前予備教育)」4月期および10月期のコーディネーターとして、プログラムをスムーズに遂行できるよう努める。</p> <p>②「院生・研究生コース」4月期および10月期のコーディネーターとして、プログラムをスムーズに遂行できるよう努める。</p> <p>③「URSEP(短期交換留学)」の4月期(単独)および10月期(共同)のコーディネーターとして、プログラムをスムーズに遂行できるよう努める。</p> <p>④「日本人学生ボランティア」4月期および10月期のコーディネート業務を以下の通り実行する。</p> <p>a)日本人学生向けの登録説明会の実施(4月18日(金)および10月17日(金))</p> <p>b)日本人学生が日本語クラスへ参加する際の取りまとめ</p> <p>c)留学生と日本人学生のペア(グループ学習)の取りまとめ(個別学習支援)</p>	0.30	<p>①「日本語研修コース」：今年度はURSEPと合同で無事に運営を行い、滞りなく終了した。講義だけではなく、授業外でも時には土日も対応するなどして、勉強面、生活面の両方からケアを行なった。</p> <p>②「院生・研究生コース」：プレースメントテストおよび履修指導を先学期より導入し、履修生がより適切なクラスに配置されるように配慮した。</p> <p>③「URSEP」：教員の休職に伴い、先学期に引き続きコースコーディネートをこなした。また定期的に日本人との交流や学外での活動等をアレンジし、日本語学習の動機づけを高める配慮をした。</p> <p>④「日本人学生ボランティア」：予定に挙げた責務をすべて果たし、留学生と日本人学生がともに勉強する場を提供する機会を積極的にコーディネートした。</p> <p>a)登録説明会を予定通り実施した。</p> <p>b)日本人ボランティアをリクエストがあった日本語の各クラスに配置した。前期：6クラス(会話A、会話B、統基礎日本語G、統基礎日本語T、初級会話、Japanese Culture)、後期：4クラス(会話A、会話B、基礎日本語T、初級会話)</p> <p>c)日本人ボランティアと個別学習を希望する留学生とのマッチングを行った。</p> <p>の前期：6ペア(ベトナム2、インドネシア2、スペイン、中国)、後期：2ペア(NZ、アメリカ)</p>	
研究	0.30	<p>①科学研究費補助金による研究調査(基盤(C)、「複数の言語における『味を表す表現』に関する調査研究」,研究代表者)を計画通り進める。</p> <p>②科学研究費補助金による研究成果の出版(学術図書(単著)を計画通り進める。</p> <p>③学術雑誌や学会での口頭発表等、研究の成果の発表を積極的に行う。なお既に予定されている口頭発表は次の通りである。</p> <p>a)7月10日(木)～12日(土)：日本語教育国際研究大会(SYDNEY-ICJLE2014),於University of Technology, Sydney(シドニー工科大学),オーストラリア。</p> <p>b)8月27日(水)～30日(土)：EJJS国際会議(The 14th International Conference of EAJJS),於University of Ljubljana(リュブリャナ大学),スロベニア。</p>	0.30	<p>①「科研費(基盤C,研究代表者)」：予定通り、ハワイ大学ヒロ校にて研究調査を行ない(3/10(月)～3/13(木)),その成果を発表した。</p> <p>②「科研費による学術図書(単著)」の出版：予定通り行なった。</p> <p>『日本語の共感覚的比喩に関する研究』,総ページ数544頁,株式会社ひつじ書房,2015年2月16日刊行(2014年度,文部科学省研究補助金,研究成果公開促進費,課題番号:265075)。</p> <p>③「研究発表」：予定されていた2件を含む計4件(査読付)の口頭発表を,国際会議(3件)や全国規模の学会(1件)において行なった。</p> <p>a)日本語学習者の日本語力に影響を及ぼす外的学習者要因-中国とロシアとの比較-(共同),SydneyICJLE2014<日本語教育国際研究大会(2014年7月11日),於オーストラリア・シドニー工科大学。</p> <p>b)日本語の「共感覚的比喩」の方向性仮説に関する分析-日本語の五感を表す「動詞」と「副詞」、および「形容詞」の意味転用の方向性-(共同),The 14th International Conference of EAJJS<EJJS国際会議(2014年8月29日),於スロベニア・リュブリャナ大学。</p> <p>c)「味」のレトリック-韓国のTVコマーシャルで使用されている「おいしさ」の表現-(単独),社会言語科学会第34回大会(2014年9月13日),立命館アジア太平洋大学。</p> <p>d)英語母語話者によるおいしさの表現-韓国語と日本語との比較を通して-(単独),The 10th International Symposium for Japanese Language Education and Japanese Studies(第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウム)(2014年11月15日),香港大学。</p> <p>なお,上記(3)(4)の発表については11月に書籍(共著)として刊行される予定である。</p> <p>④「学術論文」：上記の科研費での研究に加え,教育に関する論文も執筆した。</p> <p>中国における日本語学習者の日本語力に影響を及ぼす外的学習者要因(共著),『国際文化研究科論集』第22号,19-31。</p>	
社会貢献	0.10	<p>①地域の小学校児童と留学生との交流会を引き続き企画・実行する。既に予定されている交流会は以下の通りである。</p> <p>・6月中,宜野湾市立長田小学校との交流会</p> <p>②留学生センター主催の「留学生まつり」をセンター教員と協力し実施する。</p>	0.10	<p>①「地域交流活動」：小学校との交流会を企画・調整・実施した。</p> <p>a)前期：宜野湾市立長田小学校との交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2014年6月6日(金),10時～13時 ・学年および参加者人数：4年生,3クラス,約100名 ・参加した留学生の人数およびコース名：日本語研修コース4名(メキシコ,インドネシア,ベトナム,中国,各1名) <p>b)後期：宜野湾市立長田小学校との交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2015年12月5日(金),10時～12時半 ・学年および参加者人数：2年生,3クラス,約100名 ・参加した留学生の人数およびコース名：日本語研修コース,URSEP,STRP11名(ラオス3名,インドネシア2名,タイ2名,スリランカ,アメリカ,台湾,ベトナム各1名) <p>②「留学生まつり」：センター教員間で連携し無事実施した。</p>	
管理運営	0.10	<p>①短期留学プログラム実施委員会(カリキュラム部門),短プロ実施委員会(コーディネーター部門),学生生活委員会,学生支援・指導専門委員会,学生生活実態調査委員会,日韓共同理工系学部留学生事業実施委員会等の委員として委員会活動に積極的に参加する。</p> <p>②人文社会科学部研究科・観光学研究科の入試問題作成員として問題作成や採点業務などを行う。</p>	0.10	<p>①「学内委員」：定められた会議およびミーティングにはすべて出席し,資料を作成する等,学内の管理運営に貢献した。</p> <p>②「入試」：平成27年度法文学部第3年次特別編入学試験(11/1(土))の入試作成および採点を行った。</p> <p>③「日能試模擬試験」：日本語能力試験のための模擬試験をコーディネートし実施した(6/8(土))。</p>	
進路指導	0.10	<p>①特に私費の学生(研究生・および大学院生)については,奨学金の応募等も含め指導教員と連携して指導にあたる。</p> <p>②研究室に在室中は常にオフィスアワーとして活用し,学生の相談には常に真摯に応じ適切な助言を心がける。</p>	0.10	<p>①「修学面でのケア」：研修コース受講生のみならず,修了した学生からも日本語学習,および進学についての相談を受けアドバイスした。また,奨学金の応募や進学時に必要な推薦書を作成するなどの協力を行なった。</p> <p>②「メンタル面のケア」：今学期は特にメンタルな面でケアを必要とする学生がおり,指導教員や国際課と連絡を取り合いながら対応した。</p> <p>③「短期留学プログラム(URSEP)生の指導教員」：上記に挙げた通常の業務に加え,先学期に続き,休職した教員の業務も併せて行なった。</p>	
国際交流	0.10	<p>7/19(土)～7/20(日)に台湾にて開催されるJASSO(日本学生支援機構)主催の「日本留学フェア」へ参加し,琉球大学の教育制度等に関する的確な情報を提供し広報に努め入学希望者を獲得できるようにする。</p>	0.10	<p>①「台湾留学フェア」(7/20(日))：台北会場で本学への留学をアピールした。また琉大修了生で構成される台湾同窓会を開催し,追跡調査も併せて行う等,職務を滞り無く遂行した。</p> <p>②「その他のフェアへの参加」：さらに,以下の3つの大学における留学フェアにも参加し,国際交流担当者や研究者交流等を含む関係者との懇談や,修了生へのインタビュー等の業務を行なう等,国際交流の推進に努めた。</p> <p>a)ニュージーランド,ヴィクトリア大学(3/27(木))</p> <p>b)オーストラリア,キャンベラ大学(4/2(水))</p> <p>c)ミシガン州立大学(9/25(木))</p>	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう,記入してください。</p> <p>・記入量に応じて,枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は,「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>	1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう,記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には,右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	葦原 恭子		所 属	留学生センター	
職 名	講師		業 務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
業 務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業 務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	1.共通教育科目「日本語ⅢA/ⅣA」(中級聴解)及びURSEP科目「Japanese listening D」 「Japanese conversation D」を担当する際、各クラスで学生のニーズ及びレディネス調査を十分に 行い、学生のレベルとニーズに合わせるため極力自主作成教材を使用し、質の高い授業を行う。 課題を適宜提示し、フィードバックを適切に行うことで学生の能力を効果的に向上させる。 2.短期交換留学日本語日本文化研究コースの学生の研究レポートの指導を行い、学期末に発表 会を開催できるよう指導する。 3.アジア人財プログラムの修了生に対する追跡調査を実施し、ビジネス日本語科目のシラバス改 善に役立てる。 4.JASSOのショートステイプログラムの奨学金を獲得し、インターンシップ・プログラムを実施する。 5. 法文学部の専門科目である日本語教育副専攻の日本語教授法の講義で学生のニーズとレベ ルに合わせるため、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行う。	0.30	1.共通教育科目「日本語ⅢA/ⅣA」(中級聴解)及びURSEP科目「Japanese listening D」「Japanese conversation D」を担当する際、各クラスで学生のニーズ及びレディネス調査を十分に 行い、学生のレベルとニーズに合わせるため極力自主作成教材を使用し、質の高い授業を行うべく努力した。学生の能力を効 果的に向上させるために、課題を適宜提示し、学期末にはアンケート調査をし、提出物や期末テストの フィードバックを迅速かつ適切に行った。 2.短期交換留学日本語日本文化研究コースの学生の研究レポートの指導を行い、前期末には1名、後期 末には2名の学生に研究発表の指導をした。 3.アジア人財プログラムの修了生2名に対する追跡調査を実施した。 4.JASSOのショートステイプログラムの奨学金及び学内の中期計画達成プロジェクト経費を獲得し、イン ターンシップ・プログラムを実施した。参加学生のうち2名が派遣先での就職の内定を得た。 5. 法文学部の専門科目である日本語教育副専攻の日本語教授法の講義で学生のニーズとレベルに合わ せるため、自主作成教材を使用し、質の高い授業を行うべく努力した。前期・後期共に30名以上の学生が 受講した。	
研究	0.30	1.平成22年度～25年度の科学研究補助金の基盤研究(c)「外国人のビジネス日本語能力の評 価に関する基礎研究—評価システムの構築をめざして—」課題番号22520535で収集したデー タの処理をし、成果を学外の学会で発表する、論文にまとめる等する。 2. 学外の学術雑誌に、現在執筆中の沖縄の地域共通語に関する研究論文を投稿すべく、研究を 進める。 4. 沖縄県日本語研究研究会で口頭発表をすべく、研究成果をまとめる。 5. 沖縄県内外でアジア人財プログラムの修了生に対する追跡調査を実施する。 6. 学内外の研究資金を獲得し、1で完成したビジネス日本語Cdsを活用した研究を進める。	0.30	1.平成22年度～25年度の科学研究補助金の基盤研究(c)「外国人のビジネス日本語能力の評 価に関する基礎研究—評価システムの構築をめざして—」課題番号22520535(研究代表者・葦原恭子)の成果を研 究論文として全国的な学会誌である『日本語教育』に投稿し、採択され、巻頭掲載された。 2. 東京学芸大学の紀要に、沖縄の地域共通語に関する研究論文を投稿し、掲載された。 4. 沖縄県日本語研究研究会で沖縄の地域共通語に関する研究をテーマとして口頭発表をした。 5. 沖縄県内外でアジア人財プログラムの修了生に対する追跡調査を実施した。 6. 平成26年度の科学研究補助金は獲得できなかったため、平成27年度に獲得すべく応募した。	
社会貢献	0.10	1. 留学生によるスピーチ大会を開催し、地域に留学生のメッセージを発信する。 2. 中小企業庁の「地域中小企業の人材確保、定着支援事業」に応募し、補助金を獲得する。 3. 2の事業のコーディネータとして、沖縄県内で就職意欲がある留学生を発掘し、企業との橋渡し をする。 4. 那覇西高校の外国語クラスに留学生を派遣し、文化交流を推進する。	0.10	1. 留学生によるスピーチ大会を開催し、地域に留学生のメッセージを発信した。 2. 中小企業庁の「地域中小企業の人材確保、定着支援事業」に応募し、補助金を獲得した。 3. 2の事業のコーディネータとして、沖縄県内で就職意欲がある留学生を発掘し、企業との橋渡しをする ことにより内定者数で目標値を達成した。 4. 那覇西高校の外国語クラスに留学生を派遣し、引率者として、文化交流を推進した。	
管理運営	0.10	1.21世紀グローバルプログラム実施検討委員会委員として与えられた任務を全うする。 2. STRPプログラム及びURSEPプログラムの受け入れ担当教員としての責務を果たし、プログラムの 発展のためにJASSOの奨学金を獲得する、協定校を訪問するなどして、交換留学による交流 を促進する。 3.短期留学プログラム実施委員会の委員として、与えられた職務を全うする。 4.海外の留学フェアに積極的に参加し、学生の獲得に努める。 5. ハラスメント防止委員会委員としての職務を果たす。特にハラスメント調査委員としての責務を 全うする。	0.10	1.21世紀グローバルプログラム実施検討委員会委員として与えられた任務を全うした。 2. STRPプログラム及びURSEPプログラムの受け入れ担当教員としての責務を果たした。プログラムの発展のた めにJASSOの奨学金を獲得した。キャンベラ大学、ハワイ大学マノア校、ヒロ校、カウアイコミュニティカレッジ、ミ シガン州立大学を訪問して、交換留学による交流を促進した。 3. 短期留学プログラム実施委員会委員としての責務を全うした。 4.海外の留学フェア(キャンベラ大学、ミシガン州立大学、ハワイ大学)に積極的に参加し、学生の獲得に努めた。 5. ハラスメント防止委員会委員としての職務を果たした。特に留学生対象の事例では、事情聴取の際、通訳を務 め、陳述調査を翻訳するなどし、ハラスメント調査委員としての責務を全うした。	
進路指導	0.10	1.大学進学を希望している科目等履修生には日本留学試験に関する質問を適宜受け付け、自主 学習の手助けをする。 2.大学卒業後に日本または沖縄で就職を希望している短期留学生の就職相談に応じる。 3.研究室に在室中は常にオフィサーとして活用し、留学生の相談には常に真摯に応じ、適切 な助言を心がける。 4. 法文学部日本語教育副専攻の学生の進路相談に応じ、ニーズに合わせて適切なアドバイスを する。	0.10	1.大学進学を希望している科目等履修生には日本留学試験に関する質問を適宜受け付け、自主学習の手 助けをし、面接練習を行った。就職希望の科目等履修生については就職相談に応じ、沖縄県内企業の内 定が得られた。 2.大学卒業後に日本または沖縄で就職を希望している短期留学生の就職相談に応じた。 3.研究室に在室中は常にオフィサーとして活用し、留学生の相談には常に真摯に応じ、適切な助言を 心がけた。 4. 法文学部日本語教育副専攻の学生の進路相談に応じ、ニーズに合わせて適切なアドバイスをした。	
国際交流	0.10	1.交換留学担当者として、積極的に海外の留学フェアに参加し、留学生の受け入れ数の増加を促 進する。 2. 協定校と密に連絡を取り、ニーズに応える努力をし、交換留学制度を発展させる。 3. 新たな協定校を開拓すべく、積極的に研究交流を行なう。 4. 第5回短期留学生によるお国、大学紹介の会を実施し、派遣留学を促進する。	0.10	1. 交換留学担当者として、積極的に海外の留学フェアに参加し、キャンベラ大学、ミシガン州立大学、ウェ リントンヴィクトリア大学からの留学生の受入数の増加を促進させた。 2. 協定校と密に連絡を取り、ニーズに応える努力をし、交換留学制度を発展させた。 3. 新たな協定校を開拓すべく、積極的に研究交流を行なった。 4. 第5回短期留学生によるお国、大学紹介の会は事務局都合で実施できなかった。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してく ださい。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		